ほくでんの

＜2020年7月13日掲載＞

北海道大好き！～アイヌ語ゆかりの北海道の地名（第９回）

当社は、７月１２日に白老町にオープンしたアイヌ文化復興等に関するナショナルセンター「民族共生象徴空間（愛称：ウポポイ）」の「交流促進官民応援ネットワーク」に参画しています。

先住民族が使っていたアイヌ語を起源とした地名が多く残る我らのふるさと北海道。北海道で使う電気を生み出している発電所所在地の地名などについて、その由来をご紹介していきます。どうぞお楽しみに。

第９回目は、利尻島の発電所です。

利尻（リシリ）

日本海に浮かぶ円形の島、利尻島。利尻町と利尻富士町の二つの自治体があり、両町合わせて約4，500名の方が住んでいます。利尻島は風光明媚な自然や、利尻昆布やウニなどのとれたての海産物、秀峰利尻富士の登山などを楽しむ多くの観光客で賑わいます。

利尻島の鴛泊発電所（水力）

この島にお住まいのお客さまへの電力供給は、内燃力※発電所と水力発電所が担っています。どちらも当社のグループ企業であるほくでんネットワーク㈱が電力供給を行っています。

※内燃力（ないねんりょく）・・ディーゼルエンジンを使った発電所で、燃料は重油を使用。

内燃力発電所は、利尻島の西、利尻町沓形（くつがた）に出力7，650kWの沓形発電所があります。

一方、水力発電所は利尻富士町に2ヶ所あります。ひとつはノドットマリ川を水源とする鴛泊（おしどまり）発電所（170kW）で、ここは日本で一番北にある水力発電所です。もうひとつは、島の南東、ヤムナイ沢川を水源とする、ほくでんグループの発電所としては最も小さい水力発電所の清川発電所（75kW）があります。

さて、利尻島のアイヌ語の由来は、リ・シリ（ri-shir　高い・島）。名前の通り利尻富士の威容がこの島の大きな特徴と言えます。

（出典：山田秀三「北海道の地名」）